# 石川県立美術館だより

BIJUTSUKAN DAYORI

第390号　平成28年4月1日発行

重要文化財《蒔絵和歌の浦図見台》伝清水九兵衛
―加賀文化の粋―より

## ■ 名物裂と香道具　前田育徳会尊經閣文庫分館

## ■ 加賀文化の粋　第2展示室

- 企画展Topics「脇田和展」
- 第72回現代美術展
- 平成28年度の展覧会
- 平成27年度の展覧会を振り返って
- バスツアー募集
- ミュージアムレポート
- 4月の行事予定

## 前田育徳会尊経閣文庫分館

# 名物裂と香道具（前期）

**3月31日（木）～4月19日（火） 会期中無休**

名物裂（めいぶつぎれ）とは、そのほとんどが中国の元・明・清の時代に製織され、鎌倉や室町時代から江戸時代中期にかけて日本に舶載された染織品です。その種類は金襴・緞子・間道が主で、錦・風通（ふうつう）・印金・モール・更紗など多岐にわたります。舶載の当初は高僧の袈裟や武将の衣服、能装束、あるいは寺社の帳や打敷として用いられましたが、茶道の興隆とともに、書画の表装裂や名物茶道具の仕覆として、優れた鑑識眼をもつ茶人たちによって賞玩され、「名物裂」が形成されました。前田家のコレクションの中でも、その質・量ともに優れた名物裂は、三代藩主利常が寛永十四年（一六三七）、当時唯一の海外への窓口であった長崎へ家臣を目利きとともに遣わせ、買い求めさせたものがその中心です。利常の美意識には、他のいかなる大名の追随をも許さないスケールの大きさがありましたが、この名物裂収集にもそうした想いが反映されています。今回は、金襴、緞子、間道、モールなどを中心に四十八点を展示します。染織品は美術工芸品のなかでも最も脆弱なものであり、前期と後期で展示替えを行いますが、これだけまとめての特集展示は久々です。

また、仏前荘厳にはじまる日本の香文化は、中世には茶道や華道とともに芸道としての香道が成立し、江戸時代になると組香（数種類の香を組み合わせたものを聞き当てる雅な遊び）が盛んになりましたが、その際に使用する香道具をあわせて展示しますので、名物裂とともに洗練された美の世界をご堪能ください。

《縞地梅花石畳宝尽し段替り文様緞子（伊予簾緞子）》

## 第2展示室

# 加賀文化の粋（前期）

**3月31日（木）～4月19日（火） 会期中無休**

新幹線開業から一年が経ち、石川県、金沢市は藩政期の文化が現代に息づく地域としてますます人気が高まっています。そこで今回は、加賀藩主・前田家が推進した文化政策のエキスを紹介するという趣旨で作品を選びました。

大名家の文化といえば、まず名品の収集が思い浮かびます。前田家のコレクションは質・量ともに他家を圧倒するものでしたが、後に流出した作品もあります。今回「前田家伝来」として展示するものは、そうした作品です。その中には、重文《天狗草紙》と重文《古今和歌集・清輔本》のような大変貴重な作品もあります。《天狗草紙》は、有名寺院の僧侶たちが自分の寺の由緒や優位性を誇示する様を天狗になぞらえて批判したもので、鎌倉時代十三世紀の作です。今回は前期・後期で巻き替えを行います。

前田家の文化政策で特筆される点は、京都などから当代一流の名工を招き、工人の指導にあたらせていることです。今回は、加賀蒔絵の基礎を築いた五十嵐道甫の《蒔絵脇息図十二律箱》や、清水九兵衛作と伝わる重文《蒔絵和歌の浦図見台》をはじめ、加賀象嵌の鐙、加賀友禅の夜着など、「加賀」の名を冠した工芸ジャンル珠玉の名品を紹介します。また五代藩主・前田綱紀に招かれた裏千家四世仙叟宗室に同道した、初代大樋長左衛門による県文《飴釉烏香炉》ほか初期大樋焼の名作もあわせて展示します。常時展示されている古九谷のコレクションとあわせて、「加賀文化の粋」をご堪能ください。



県文《飴釉烏香炉》初代大樋長左衛門

企画展Topics

# 寄附受納記念 脇田和展 ― 鳥に詠う―

**4月24日(日)～5月15日(日) 会期中無休**

脇田和ほど鳥をいとおしみ描き続けた画家はいないでしょう。今回ご寄附いただいた脇田作品三一七点中、実に八十九点の画題に「鳥」という文字が入っています。《少年と鳥》《鳥と横臥する女》《鳥とブーメラン》《鳥の閑日》など、よくぞ、これだけ鳥を入れたタイトルを考えたものだと驚いてしまいます。それに《鳩》や《鶇》《ほおじろ》などもむろん鳥を描いていますし、画題には鳥を思わせずとも、画面に鳥を描き入れた作品は数知れません。

たとえば《連理》(図①)、これは男女の仲睦まじいことを現す「比翼連理」から言葉を取っていますが、向かい合わせの比翼鳥が描かれています。《アロハ》や《緑雨》などにも鳥は潜んでいます。ざっと見て七十四点はあるでしょうか。両方あわせると一六三点、つまり、今回の作品の半分以上に鳥が描かれているのです。

脇田と鳥との出会いは、昭和二十八年に肋膜を患い、自宅療養をしていた時だといいます。知人の彫刻家が鳥籠に「マシコ」を入れて見舞いに来たのです。こころを癒やされたのでしょう。

同年の作《放鳥》(図②)をご覧ください。画面には鳥籠に入る一羽の鳥を見つめ、嬉しいとも哀しいともつかぬ表情を見せる女性と、鳥を放そうとする少年、そして後方には飛び回る二羽の鳥が描かれています。脇田は異なる時間を絵巻のように同一画面に描いています。つがいの鳥が一羽逃げ、残るさびしげな鳥を哀れんで、再度つがいにと女性は籠から解き放すのです。放たれた鳥は猛烈な勢いで、先に飛び立った鳥を追いかけていきます。

脇田の作品は詩情にあふれ、つねに物語性を感じさせます。

《連理》1994 (図①)

《放鳥》1953 (図②)

## 第3～9展示室 第72回 現代美術展

**4月2日(土)～19日(火) 会期中無休**

昭和二十年十月に第一回展が開催された現代美術展は、本年七十二回展を迎えます。その間、文化勲章受章者、日本芸術院会員、人間国宝をはじめ、多くの実力作家を生み出し、その成果は「美術工芸王国石川」として大きく花開いております。

本展では、所属会派を超えて、日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の六部門から、石川県美術文化協会会員らの秀作に、一般公募からの入賞・入選者の意欲作を一堂に展示します。

◆部　門／洋画(第7・8・9展示室)
工芸(第4・5・6展示室)
写真(第3展示室)

※金沢21世紀美術館では、日本画・彫刻・書が展示されます。

◆入場料(金沢21世紀美術館と共通)

| | 一般 | 大高生 | 中小生 |
|---|---|---|---|
| 当日 | 一、〇〇〇円 | 六〇〇円 | 五〇〇円 |
| 前売り | 九〇〇円 | 五〇〇円 | 四〇〇円 |
| 団体 | 八〇〇円 | 四〇〇円 | 三〇〇円 |

※当館友の会会員は会員証の提示により団体料金に割引されます。

◆作品解説／会期中、作品解説を行います。

◆開館時間／午前9時30分～午後6時

# 平成28年度も
# 当館の展覧会をお楽しみください

平成二十八年度は三つの企画展のほか、コレクション展示室で特別陳列や特集を計画しています。

春の企画展は「寄附受納記念 脇田和展 ―鳥に詠う―」です。昨年末、軽井沢の脇田美術館から脇田和氏の作品三一七点の寄贈を受けました。脇田氏は明治の初めまで金沢に居住した加賀藩士の末裔で、石川とゆかり深い作家であり、金沢に想いを寄せた作家でした。そうした縁から《アイ坊と猫》や《少年と鳥》《ポンコツ車を誘導する鳥》など代表作をはじめ、まさに脇田芸術の中核をなす作品群が新たに所蔵品に加わりました。それを記念して、油彩画・素描・版画など約一五〇点のお披露目公開です。

秋は「近代美術の至宝 ―明治・大正・昭和の巨匠―」を行います。わが国の明治から昭和に至る近代の美術を、絵画・彫刻・工芸の作品を通して各時代の歩みをたどります。東京や京都をはじめ各地の美術館から借用するなど、これまでにない規模と内容です。教科書などで一度は目にした作品も数多く、お子さんたちとも一緒にお楽しみいただける展覧会になると思います。

新春一月には「絵画にみる江戸のくらし ―浮世絵版画を中心に―」を開催します。江戸の人々のくらしや風俗を歌麿・北斎・広重などの浮世絵で紹介します。歌舞伎役者や相撲取りのほか、「東海道五十三次」など人々の楽しみとあこがれを感じ取ることのできる内容です。江戸初期の風俗画として、前田利常夫人の珠姫と目される女性をはじめ加賀藩の武家や町人が登場する「金沢士庶遊楽図屏風」も特別公開されます。

コレクション展示室では、特別陳列として前田育徳会尊經閣文庫分館で「財団設立九十周年 前田利為のコレクションを中心に」を行います。関東大震災で多くの文化財が失われていく現状を憂えた前田利為が、貴重な古典籍を複製頒布することを目的として大正十五年に財団を設立してから九十年を記念した展観で、利為収集の作品を中心に展示します。

特集として古美術部門では「福者認定記念 高山右近」、近現代美術は「没後30年 高光一也の世界」「立見榮男展」「開光市展」(油彩画)や「長谷川大治郎・梶本良衛木彫二人展」「挿画の鬼才 山崎百々雄展」、工芸は「石川の工芸 女性作家のきらめき」などを予定しています。

こうした当館企画の展覧会に加え、五月に日展の金沢展が開催されるほか、当館が主催に加わる「ビアズリーと日本」をはじめ二十五の展示が予定されています。今年も石川県立美術館の展覧会に足をお運びください。

脇田和《窓際の瓜》1974 油彩
―脇田和展―

荻原守衛《おんな》
―近代美術の至宝―

喜多川歌麿《風流子宝合 大からくり》
―絵画にみる江戸のくらし―

# 平成27年度のコレクション展を振り返って

平成二十七年は、新幹線金沢開業の年でした。北陸新幹線という名称も定着し、予想を大きく上回る遠来のお客さまが金沢を訪れました。石川県立美術館では、前号でお伝えしたように「石川ならではの美術」を紹介することを年間の方針として展示を行ってきました。

本号ではコレクション展示を振り返ります。コレクション展示室では、月ごとにテーマを設けて所蔵品、寄託品を公開していますが、本年度の入場者は前年の約四十パーセント増で、ここにも新幹線効果が及んだようです。

前田育徳会尊經閣文庫分館では二つの特集を開催しました。「芳春院まつ」は加賀藩祖・前田利家夫人のまつを紹介する展観でした。肖像画や消息をはじめ、まつが描いた「達磨像」や所用の「短刀」など、加賀藩を守るため人質として江戸に下向した芳春院の心情をもうかがわれる内容でした。「四代藩主前田光高を偲ぶ」では、三十歳で早世した光高の著作や書状などにより、三代利常・五代綱紀の間にあって、短い一生を送った藩主の姿を紹介しました。第2展示室では年間を通して指定文化財をはじめとする優品の数々を紹介しました。白山比咩神社所蔵の国宝「剣 銘吉光」のほか、重文「四季耕作図」（久隅守景筆）など各地から問合せをいただいたものも多く、それらの作品に注目が集まりました。

近現代美術では、所蔵品をPRする一年と位置づけ、「石川ゆかりの作家たち」「石川の工芸」「石川の美術近代編」などのテーマ展示を行いました。特別陳列「石川の近代彫刻をたずねて」は、明治から今日に至る、石川の近代彫刻の歩みをたどるものでした。展示室での作品のほか、屋外に設置された作品を写真で紹介することで、今日の石川彫刻のすべてをご覧いただくことができたように思います。

恒例の夏休み親子で楽しむ美術館は、「アートde暑中見舞い」と題して、夏にちなんだ作品を取り揃え、カードにしたその作品の画像に一言添えて暑中見舞いをつくって楽しんでいただきました。子どもたちばかりでなく、一般の来場者にも好評で、たくさんの暑中見舞いが展示室を飾りました。

工芸では、夏に「加賀象嵌」をとりあげ、江戸時代に始まる加賀の象嵌が今日にどのようにつながっているかをご覧いただきました。

三月には「食を彩る」と題して、和洋のスイーツを陶芸の器に盛ってみました。和菓子店やケーキショップなど、多くのお店からご協力をいただきました。さすがに食品は、カビや虫の問題があって展示室では展示はできませんので、その姿を写真に納めて紹介しましたが、初めての試みに来場者にはとても楽しんでいただくことができました。

重文《四季耕作図》（右隻）久隅守景
―優品選―

―石川の近代彫刻をたずねて―

―石川の工芸Ⅲ 食を彩る―

講演会記録 企画展「工芸にみる石川の巨匠」

# 「石川の工芸 －巨匠たちの思い出と裏話」

当館館長　嶋崎 丞

松田権六先生との出会いは、日本伝統工芸展が金沢展を開くようになる前年、準備にいらっしゃいました。せっかく美術館ができたのだから、場所を提供してくれないかというわけです。しかし、突然会場を貸せと言われても、できませんとお断りしたんです。一番弟子の大場松魚先生に、すぐに断るべきではないと言われましたが、企画展というのは学芸員が中心になって考えるものだ、と思っていたわけです。すると先生はご立腹で、知事の所へ行かれたんですね。若造が、美術館を貸すわけにいかんと頑張っている、何とかしてほしいと。そして知事命令が下りました。今ではお引き受けしてよかったと思いますけれども、当時はこんな経緯でありました。以来、私は東京へ行くたび、時間があれば先生の所へ行きました。話を以て人を遇するといいますか、非常に話し好きな方で、話題の豊富さ、深さといいましょうか。この先生から工芸の色んな話題を聞くわけですから、私が今日あるのは、相当部分松田先生のおかげかなと思っております。

美術館を建てるとき、中心的な委員を先生にお願いしようという話になりました。それから、油絵関係の専門委員として能登ご出身の嘉門安雄先生、前田家ご当主のご先代、前田利建さんに特別顧問をお願いしました。すると先生から、おれの作品がきみの所にあるかと聞かれる。ありませんと答えると、作品のない所に意見するわけにいかないが、石川県はおれの作品を買う気があるか、と聞く。そこで、わけていただけるなら喜んで、と言ったのが蓬莱之棚です。初めて購入するのなら、大きい作品がいいだろうと仰ったんですね。そこで知事を説得し、議会にかけると、満場一致で購入が決まったわけです。

琳派という流れの中に、鈴木其一という画家がおりますが、彼の作品からインスピレーションを受けているのかなと考えますね。背景の波の表現などは、これをベースにして、ご自分の作品につないでいることがわかるわけです。明治以降の漆芸作品のうち、重要文化財になっているものはありません。私は指定されるなら蓬莱之棚だろうと、当時の知事に申し上げました。それから二十年以上経ちますが、そうなっていないのは残念ですね。

《蓬莱之棚》－展示室にて－

松田先生は、正倉院宝物などもヒントにしている。そうだと言うわけにいかん、と笑っておられましたが。名品の優れた感性を、どうテーマにしてものづくりをするかということ。ものから学ぶということは、作品を見て、自分の作品につないでいく、その考え方がすばらしいんですね。日本の美術作家は、みな自分の中にテーマを持っていて、そこから題材を引き上げ、再構成して作品を生み出していくのです。人間から、つまり師匠から学ぶのには限界がある。しかし名品から学ぶとは、自分で見て、もっとこうした方がいい、こう展開したら楽しくなると考えることです。また、これは木村雨山先生も仰ったことですけれども、生命感をデザイン化して、作品の構成につなげていく。写生を図案としてどう構成するか、これを常に頭に置いておられた。皆さん作家の方はそうでしょうけれども、松田先生の場合はその仕方がずば抜けていたと思います。

〈一月十七日に当館ホールで行われた講演会の内容について、当館の責任で抜粋・編集しています。〉

平成28年度 友の会 第14回バスツアー参加者募集

# まちに守られた、平安の秘仏
## ー越前を旅する

八坂神社

**期　　日**／平成二十八年五月十四日(土)
**集合時間**／午前七時五〇分
**発　　着**／金沢駅金沢港口(西口)
**参加代金**／友の会会員　七、五〇〇円
　　会員以外　七、八〇〇円
**募集定員**／四十二名

**◆見学地**

**【福井市郷土歴史博物館】**
福井藩、越前松平家に関する資料が充実しています。当日は「由利公正と仲間たち」など、福井の歴史を学芸員の方からお話しいただきます。

**【大谷寺(おおたんじ)】**
泰澄が最初に修業し、また入寂した場所とされるのが、越知山(おちさん)です。大谷寺は山上を支配していましたが、のちに天台宗寺院として再興されました。県指定文化財《十一面観音坐像》などを安置しています。

**【朝日観音福通寺】**
奈良時代・養老元年(七一七年)に泰澄大師が開かれたお寺で、正観世音菩薩、千手観世音菩薩を祀っています。本尊は秘仏ですが、住職のお話を聞きながら平安～室町時代につくられたお像をご覧いただきます。

**【日吉神社】**
古記録がないため、その起源や発展の歴史は未詳です。現在伝わる大日如来坐像は、本来福通寺の本尊であったとも言われています。平安時代につくられた仏像が多数のこり、廃仏毀釈によるお像の散逸を免れた例として貴重です。

**【八坂神社】**
昭和三十六年、台風で境内杉木が倒れたことを機に、社殿を改築しました。その際、旧内陣の床下より多数の仏像・仏具が発見され、お像はいずれも平安末期のものとみられています。神社の方に解説をしていただきながら、重要文化財のお像をご覧いただきます。

**◆申込方法**
往復はがきに左記の事項を記入し、ご応募ください。応募者多数の場合は抽選になります。
①往信はがきの裏面に「美術館バスツアー希望」と明記し、氏名・年齢・性別・郵便番号・住所・電話番号・会員番号(ある方のみ)をお書きください。
②返信はがきの表面には返信先をはっきりとお書きください。消えるボールペンは使用しないでください。
③返信はがきの裏面には何も書かないでください。

**◆応募先**
〒九二〇―〇九六三 金沢市出羽町二―一
石川県立美術館バスツアー係
応募締切／四月一五日(金)必着
※応募者一名につき、往復はがき一通でご応募ください。
※急な階段や歩きにくい道が行程に含まれます。

# ミュージアムレポート

二月二十八日、『石川の工芸 食を彩る』の展示を鑑賞するキッズプログラムが行われました。器の種類や素材に注目しながら作品鑑賞した後は、「おいしそう」を目指して器のデザインに挑戦しました。展示室内には『伝統工芸とスイーツとのマリアージュ』と称して、普段はなかなか見ることが出来ない、所蔵作品にお菓子を盛りつけた写真パネルの展示が開催されています。それが参加者の皆さんの器のデザインへの意欲を掻き立てます。パネル展示の中の自分の好きなお菓子にこだわって、その器のデザインを考える人、また、器の形に触発されその器の模様を考える人など、参加の皆さんが選んだお菓子・器ともバラエティーに富み、いろいろなデザインの「おいしそう」な作品が出来上がりました。

# 四月の行事予定

| | |
|---|---|
| 24日(日) | ■映像ギャラリー 午後1時30分～ 美術館ホール 入場無料 |
| | 文化人記録映像 脇田和 (30分) |

## 寄附受納記念 脇田和展 ―鳥に詠う―　会期:4月24日(日)～5月15日(日)

企画展Topics

《二人》1942 油彩

《カシミールの織子》1967 油彩

《ポンコツ車を誘導する鳥》1981 油彩

《少年と鳥》1957 油彩

《S坊と鳥》1983 水彩

《暖帯》1985 油彩

## 次回の展覧会

会期:4月23日(土)～5月15日(日)

| 前田育徳会 尊經閣文庫分館 | 第2展示室 |
|---|---|
| 名物裂と香道具 (後期) | 加賀文化の粋 (後期) |

| 第3・4展示室 | 第5展示室 | 第6展示室 | 企画展示室 |
|---|---|---|---|
| 新収蔵品展 絵画 | 春の優品選 工芸 | 優品選 ―テーマは爽― 絵画・彫刻 | 脇田和展 ―鳥に詠う― |

### ご利用案内

コレクション展観覧料
一　般　360円(290円)
大学生　290円(230円)
高校生以下　無料
※(　　)内は団体料金
毎月第1月曜日はコレクション展示室無料の日(4月は4日)

今月の開館時間
午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間
午前10:00～午後7:00 年中無休

4月の休館日は
20日(水)～22日(金)

日本海の海の幸や加賀の美食なら
片山津温泉
加賀観光ホテル
〒922-0412 石川県加賀市片山津温泉ウ 41
加賀観光ホテル予約センター 受付時間 9時～20時
Tel.0761-74-1101



石川県立美術館だより
第390号(毎月発行)
2016年4月1日発行
〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel:076(231)7580
Fax:076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/